琉球大学整形外科
専門研修プログラム

目の前の患者さんのために、
目の前にいない患者さんのために

琉球大学整形外科　https://www.ros2019.com/
統括責任者：西田康太郎（担当：仲宗根哲）

目次

1. 整形外科専門研修プログラムについて（p2-4）
2. 琉球大学整形外科専門研修プログラムの特徴（p5-14）
3. 琉球大学整形外科専門研修プログラムの目標（p15-18）
4. 整形外科研修プログラム基本方針（p19）
5. 研修計画・研修方法（p20-25）
6. 研修スケジュール（p26-31）
7. 研修終了後の進路（p32）
8. 専門研修プログラムの体制（p33）
9. 応募方法・病院見学の申し込みについて（p34）

1. 整形外科 専門研修プログラムについて

整形外科専門研修の理念

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念としています。

公益社団法人
日本整形外科学会

整形外科専門研修の使命

整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。また整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供する使命があります。

整形外科専門研修後の成果

整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコア・コンピテンシー（基本的診療能力）も習得できます。

1. **コミュニケーションスキル**
   患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと
2. **プロフェッショナリズム**
   自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること
3. **システムに基づいた診療**
   診療記録の的確な記載ができること
4. **患者ケア**
   医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること

整形外科専門研修後の成果

専攻医は研修期間中に以下のコア・コンピテンシー（基本的診療能力）や進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。

5 **診療に即した学習と医学的知識の向上**
臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること

6 **チームワーク**
チーム医療の一員として行動すること

7 **教育**
後輩医師に教育・指導を行うこと

8 **地域医療**
地域住民の健康維持向上へ貢献すること

2. 琉球大学整形外科 専門研修プログラムの特徴

目の前の患者さんのために 我々に課せられた使命

沖縄県は、多くの離島があり、海を隔てて他県と遠く離れているため、患者さんは県内で治療を完結する必要があります。このため私たちは整形外科疾患全般をオールラウンドに対応し、かつ、日本最高レベルの医療を維持し続ける必要があります。私たちは赤ちゃんからお年寄りまで、さらにはプロスポーツを目指す子供達や現役のトップアスリートまで担当し、予防、治療、啓発など幅広い整形外科領域に関わる必要があります。そのためには、膨大な知識と卓越した技術が必要ですが、決して一人だけでは治療を完結できません。チーム医療やリーダーシップを学ぶ、効率よい研修が非常に重要です。

私たちの専門研修プログラムでは、整形外科領域のあらゆる疾患を網羅、指導しています。多岐にわたった整形外科診察法や手術を習得することは、私たちの整形外科プログラムの魅力でもあります。また、効率よく整形外科知識を獲得するだけでなく、カンファレンスや学会発表を通して、診療から学び、そこから反省し進歩できる謙虚な姿勢を学ぶことができます。

専門医を取得後は、専攻医を指導するという立場になることで、知識の整理や手技の向上につながります。さらに、専門分野を追求し、一般的な疾患やまれな疾患だけでなく、治療難渋例やトラブル例にも対応できる整形外科医になることができます。

熱意のある指導医の下、知識や技術だけでなく、リーダーシップのある優れた専攻医を育成するのが私たち琉球大学整形外科プログラムの使命です。

離島が多い沖縄ならではの医療

沖縄県は南西諸島の島々（沖縄諸島・先島諸島・大東諸島）から構成されており、39の有人離島があります。最東端から最西端までは約1000km、最北端から最南端までは約400kmと広大な県域を持っています。宮古島と石垣島、久米島にはそれぞれ県立病院や公立病院が設置され、16島に県立診療所、4島に町村立診療所が設置されています。私たちのプログラムでは、県立八重山病院や県立宮古病院を連携施設とし、地域医療を研修することができます。本島や都市では経験できない限られた医療資源で行う診療など、医師としての実力や応用力をつけるチャンスを得られます。

各連携施設には、専門指導医が常勤し、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、地域住民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することができます。

地域枠医師のキャリア形成

琉球大学病院は沖縄県の委託を受けて地域医療支援センターが設立されています。地方を中心に医師不足の問題が顕在化している中、安定的に地域医療を守るために**地域枠学生**の将来設計、それに引き続き、研修体制の整備および安定した医師派遣体制の構築など、沖縄県全体を視野に入れた対策を行っています。

私たちのプログラムでは、地域枠医師の指定医療機関である、県立宮古病院・県立八重山病院（離島）、県立北部病院・北部地区医師会病院（本島）が連携施設となっています。専門医取得後も**地域枠キャリア形成プログラム**を考慮することができます。

熱意ある気さくな指導医

整形外科の専門医となるためには、膨大な知識と高い技術を身につけるとともに、チーム医療を学ぶ事が必要です。そして、それらを熱心に教える指導医が非常に重要です。

琉球大学整形外科および連携施設では、専攻医に手術指導や知識の教示だけでなく、学会発表、論文執筆などを親身に丁寧に指導します。整形外科医は気さくに話せる人が多いことに付け加え、沖縄のウチナーンチュ気質であるアットホームでおおらかな指導医が多いです。

これまでの専攻医の先生からは、「カンファレンスでもざっくばらんに質問ができ、教えてもらえる」、「フィードバックしてもらえる」などを高く評価してもらっています。

工夫を凝らした独自の指導

- カダバートレーニングでの手術指導
- 微小血管マイクロサージャリー縫合指導
- AO骨折治療ミニコース
- 人工関節置換術における三次元術前計画方法の指導
- 各専門学会における企業展示ブースの見学ツアー
- 看護師とのワークショップによるチーム体制作り

など

垣根を超えた繋がり

沖縄の整形外科医は勤務医と開業医、他科との垣根が低く、横のつながりが強いことが特徴です。このため各専門分野の先生とコミュニケーションを取りやすく、相談がしやすい環境です。私たちのプログラムでは、専攻医にとって必要なコミュニケーションやチームワーク力を養うことができます。

研究や学会発表への取り組み

琉球大学整形外科は、基礎・臨床研究や学会発表、研究会にも積極的に取り組んでいます。基礎学的な手法で整形外科疾患にアプローチすることは、臨床医にとって資質を養うことになります。琉球大学整形外科では、研究や新しい治療、予防・啓蒙活動を積極的に取り組んでいます。

研究テーマ

- 神経筋原性側弯症の病態・自然経過と治療戦略
- 沖縄県における骨粗鬆症治療に関する疫学調査
- 屈筋腱断裂における新しい縫合法の基礎研究
- 悪性骨・軟部腫瘍の特性を制御するmicro RNAの探索と新規抗がん剤の開発
- バイオ3Dプリンターを用いたスポーツ障害に対する再生医療の技術開発
  ーACL時の骨靭帯系都合部の再生ー
- 人工股関節置換術後の脊椎-股関節アライメント変化　など

県内の研究会

- 琉球脊椎外科カンファレンス
- 沖縄ハンドミーティング
- 沖縄関節外科研究会
- 琉大キャンサーボード
- 沖縄骨転移カンファレンス
- 琉球四肢重度外傷セミナー
- 沖縄外傷セミナー
- 沖縄小児整形外科講習会　など

予防・啓蒙活動

- 骨粗鬆症予防（一次骨折予防）
- 二次骨折予防
- ロコモティブシンドローム
- サルコペニア

など

一人の医者が治療できる患者はほんの僅かです。私たちは、将来の患者さんのために研究、そして新しい治療法を開発する必要があります。

目の前にいない患者さんのために

充実した臨床経験

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靱帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科研修プログラムの施設群を構成する連携病院は26施設、合計123名の指導医が在籍し、さまざまな疾患を経験できるよう各施設の特長を生かした研修を行っています。

すべての領域に豊富な症例数

大学病院では脊椎外科、腫瘍、手外科、小児整形外科、スポーツ・リウマチ、人工関節・骨盤骨折の6グループを2ヵ月毎にローテートして研修し、他の研修連携施設では外傷性疾患、スポーツ障害や加齢による変性疾患を中心に研修を行っています。

整形外科専門研修プログラムにおいて必要とされる症例数は、年間新患数が500例、年間手術症例が40例と定められておりますが、本プログラムでは基幹施設および連携施設全体において2019年度新患数49,310名、年間手術件数およそ23,653件 （他プログラムとの重複を含む）の豊富な症例数で、必要数をはるかに上回る症例を経験することが可能です。

基幹病院の専門グループ

基幹病院である琉球大学整形外科は専門性の高い6つグループで構成され、知識と技術を集結し、高度な治療や難渋例の相談を引き受けています。脊椎グループ、腫瘍グループ、手外科グループ、人工関節グループ、スポーツ・リウマチグループ、小児整形・リハビリテーショングループがあり、専門研修だけでなく、基礎研究や医学生教育を行っています。

また、脊椎カンファレンス、骨転移カンファレンス、ハンドミーティング、関節外科研究会、キャンサーボードなどの県内の整形外科医だけでなく、癌疾患を取り扱う他科の先生とのディスカッションも盛んに行なっています。

女性医師の活躍推進

琉球大学整形外科では、女性整形外科医師の活躍を推進しています。近年の琉球大学医学部医学科の女性の入学者割合は40%を超えており、2019年は47%と半数近くが女性でした。琉球大学整形外科は「整形外科分野は女性が働きやすく活躍できる」と考え、個人に即したプログラムを、女性医師の声を直接聞いて作成しています。2019年時点で沖縄県の整形外科には女性医師17人（16%）が在籍しており、全国平均の5%に比べ女性比率が多いです。これからも女性医師の声の届きやすい、働きやすい環境を目指します。私たちは女性整形外科医師が活躍する場を提供し、女性整形外科医師の育成に取り組んでいます。

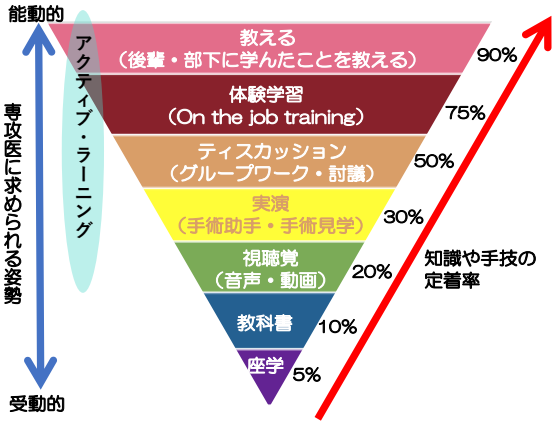
女性医師育成の取り組み

整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修には条件（p.25）がありますが、私たちの取り組みを示します。

- 出産、育児期間は本人のニーズに合わせた就業形態で、ワークライフバランスを考慮します。また、結婚・出産後の整形外科キャリア形成のための産後支援システムを構築します。
- **男女に関係なく**、お互いをサポートし合うシステムを作ります。家庭と仕事が両立できるようにします。
- お子様やご家族に配慮し、朝カンファレンス等も自宅からオンライン参加することも可能で、臨床能力を習得できます。

2020年～ 専攻医へのアクティブラーニング

● アクティブラーニング
　専攻医自らが協力して学び合い、スキルを習得する環境を提供しています。



● 若手医師主導のウェブセミナー
私たちは、若手医師主導のセミナーを開催し、若手の積極性やモチベーションを上げる教育方法を取り入れています。　通常の学会や研究会では、若手医師は座長や世話人などの経験はなかなかできませんが、ウェブという気軽な場を用いて責任のある役割を担うことで、より深く整形外科疾患の病態や治療を理解できるようになります。

● 手術手技の習得・向上
　手技の向上や技術の上達のためには、下記の3要素が重要です。
1. Motor skill（繰り返し練習で上達）
2. Cognitive skill（エラー察知能力、対応力、とっさの決断力）
3. Attitude（謙虚さ）

　どのような簡単な手術でもピットフォールがあります。そのためにも豊富な指導医の下で、ピットフォールを察知し、対応し、決断するスキルを習得する必要があります。それでも生じてしまった合併症には迅速に真摯に対応しなければなりません。私たちを信頼し、任せてくれた目の前の患者さんのために、そして自らの誇りのために「謙虚さ」は重要なのです。

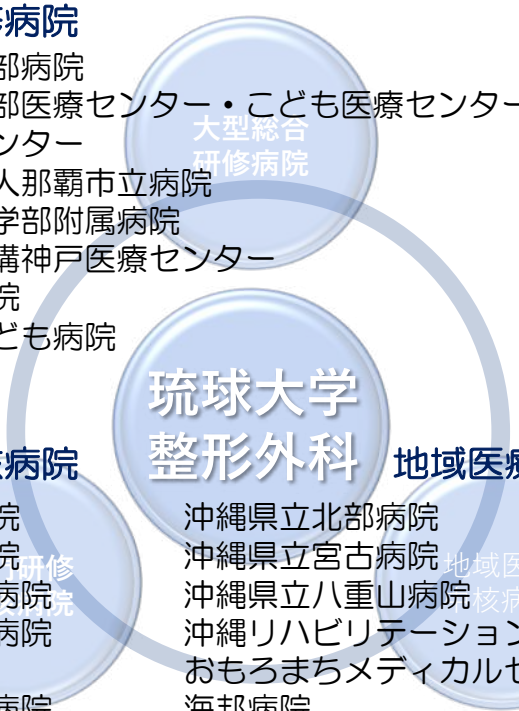
専門研修基幹施設

本プログラムでは、**琉球大学整形外科**が専門研修基幹施設です。

専門研修連携施設

大型総合研修病院

沖縄県立中部病院
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
友愛医療センター
独立行政法人那覇市立病院
神戸大学医学部附属病院
国立病院機構神戸医療センター
聖隷浜松病院
兵庫県立こども病院



専門研修中核病院

大浜第一病院
沖縄協同病院
沖縄赤十字病院
中部徳洲会病院
中頭病院
南部徳洲会病院
ハートライフ病院
熊本整形外科病院
明和病院（神戸）

地域医療中核病院

沖縄県立北部病院
沖縄県立宮古病院
沖縄県立八重山病院
沖縄リハビリテーションセンター病院
おもろまちメディカルセンター
海邦病院
同仁病院
北部地区医師会病院
与那原中央病院

2. 琉球大学整形外科 専門研修プログラムの特徴

基幹病院・連携施設の手術実績 （2020）

No.	施設名称	新患数	手術数								
			脊椎	上肢・手	下肢	外傷	ﾘｳﾏﾁ	ｽﾎﾟｰﾂ	小児	腫瘍	計
0	琉球大学病院	1163	119	152	98	97	6	15	23	85	595
1	神戸大学医学部附属病院（兵庫県）	1143	127	119	326	200	4	179	14	227	1196
2	沖縄協同病院	1445	151	11	38	274	0	19	0	1	494
3	同仁病院	414	35	55	176	95	0	30	2	1	394
4	聖隷浜松病院整形外科（静岡県）	2909	724	576	542	307	42	199	52	130	2572
5	おもろまちメディカルセンター	1300	0	12	11	56	0	0	0	22	101
6	中頭病院	200	104	237	162	762	10	0	0	43	1318
7	大浜第一病院	2982	198	91	113	295	0	15	0	0	712
8	北部地区医師会病院	1436	17	127	268	24	23	0	0	0	459
9	南部徳洲会病院	115	74	111	117	606	0	39	0	12	959
10	沖縄県立宮古病院	1,437	1	132	241	10	2	0	12	5	403
11	与那原中央病院	1764	0	148	28	194	0	2	2	31	405
12	沖縄県立南部医療センター ・こども医療センター	550	42	4	22	165	0	0	102	3	338
13	那覇市立病院	2201	295	407	53	423	0	0	0	10	1188
14	沖縄県立中部病院	623	25	16	40	378	0	0	2	2	463
15	沖縄ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ病院	665	0	5	74	0	0	19	0	2	100
16	ハートライフ病院	1144	27	123	196	579	0	151	0	7	1083
17	友愛医療センター	3205	174	265	949	630	19	202	70	20	2329
18	海邦病院	1130	0	50	81	45	5	65	0	0	246
19	沖縄県立八重山病院	1393	2	63	68	194	0	12	3	2	344
20	中部徳洲会病院	3177	258	88	101	678	0	0	0	12	1137
21	沖縄赤十字病院	1383	0	50	76	223	8	0	5	6	368
22	沖縄県立北部病院	1708	0	81	166	23	0	0	42	2	314
23	明和病院（兵庫県）	761	0	29	139	327	0	232	26	8	761
24	国立病院機構　神戸医療センター（兵庫県）	808	404	40	65	229	3	1	64	2	808
25	兵庫県立こども病院（兵庫県）	336	17	22	88	75	0	1	117	10	330
26	熊本整形外科病院	3148	298	453	700	1236	56	64	130	23	2960
計		38540	3092	3467	4938	8125	178	1245	666	666	22377

3. 琉球大学整形外科 専門研修プログラムの目標

到達目標

整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料
（日本整形外科学会ホームページ）
https://www.joa.or.jp/edu/index.htmlを参照

1 専門知識

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を養成します。さらに、進歩する医学の新しい知識を修得できるように、幅広く基本的、専門的知識を修得する。※整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料1「専門知識習得の年次毎の到達目標」に明示します。

2 専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する幅広い基本的な専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）を身につける。※整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料2「専門技能習得の年次毎の到達目標」に明示します。

3 学問的姿勢

臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を修得することができることを一般目標とし、以下の行動目標を定めています。

到達目標

1. 経験症例から研究テーマを立案しプロトコールを作成できる。
2. 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。
3. 結果を科学的かつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる。
4. 研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意できる。
5. 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる。
6. 統計学的検定手法を選択し、解析できる。

4 医師としての倫理性、社会性など

「医師が守るべき法律と医師に求められる倫理規範を理解し、遵守できる」を一般目標とし、以下の行動目標を定めています。

1. 医師法等で定められた医師の義務を知っている。
2. 医療法の概略、特に療養担当規則を理解している。
3. 医療行為に関する上記以外の法律(健康保険法・薬事法など)を十分に理解し、遵守できる。
4. 医療倫理、医療安全の重要性を理解し実践できる。
5. DOH (Declaration of Helsinki)、日本医師会の「医の職業倫理綱領」を知っている。
6. 患者やその家族と良好な信頼関係を確立することができる。また、患者およびその家族と良好な信頼関係を築くことができるようコミュニケーション能力と協調による連携能力を身につける。さらに、医療職スタッフとのコミュミケーション能力を身につけ、関連する医療従事者と協調・協力してチーム医療を実践することができる。

経験目標

整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料
（日本整形外科学会ホームページ）
https://www.joa.or.jp/edu/index.htmlを参照

1 経験すべき疾患・病態

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靱帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患・病態を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修します。※経験すべき疾患数と病態数については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示します。

2 経験すべき診察・検査等

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科研修カリキュラム」に明示した経験すべき診察・検査等の行動目標に沿って研修します。尚、年次毎の到達目標は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料2「専門技能習得の年次毎の到達目標」に明示する。Ⅲ診断基本手技、Ⅳ治療基本手技については3年9カ月間で5例以上経験することです。

3 経験すべき手術・処置等

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科研修カリキュラム」に明示した経験すべき手術・処置等の行動目標に沿って研修すること。そして、160例以上の手術手技を経験すること、そのうち術者としては80例以上を経験すること。尚、術者として経験すべき症例については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科研修カリキュラム」に明示した（A：それぞれについて最低５例以上経験すべき疾患。B：それぞれについて最低１例以上経験すべき疾患。）疾患の中のものとします。

4 地域医療の経験（病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療など）

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科研修カリキュラム」の中にある地域医療の項目に沿って周辺の医療施設との病病・病診連携の実際を経験する。また研修期間中に地域医療研修施設に最低3カ月間に相当する期間勤務することを必須とします。

5 学術活動

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得する。また、1回以上の学会発表、筆頭著者として1編以上の論文を作成することです。

4. 整形外科研修プログラム基本方針

基本方針

専攻医及び指導医マニュアルに関しては、
整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料
（日本整形外科学会ホームページ）
https://www.joa.or.jp/edu/index.htmlを参照

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、琉球大学病院（基幹施設）および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の12月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【5.6修了要件】に定めるとおりです。

このプログラム内容および専門研修プログラム管理委員会は施設実地調査（サイトビジット）などの監査（第3者の評価・指導）を受ける。その際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応します。

5. 研修計画・研修方法

10の研修領域

整形外科専門研修は1ヵ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9ヵ月間で45単位を習得するプロセスで研修します。

10の研修領域 合計45単位		
a.	脊椎・脊髄	6単位
b.	上肢・手	6単位
c.	下肢	6単位
d.	外傷	6単位
e.	リウマチ	3単位
f.	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ	3単位
g.	スポーツ	3単位
h.	地域医療	3単位
i.	小児	2単位
j.	腫瘍	2単位
k.	流動単位	5単位

流動単位は、aからjまでの領域の中から必修単位とは別に**自由に選択することが可能**です。

地域研修は、専攻医が大規模な病院以外で地域に密着した医療を経験することと、専攻医の都市部偏在を回避することが目的です。

1病院で研修可能な分野が複数ある場合は、研修期間及び研修実態に応じて分配します。
例）
■脊椎・脊髄、外傷分野の研修病院に 1 年間勤務した場合は、脊椎・脊髄 6 単位、外傷 6 単位を認定します。
■上肢・手、リウマチ分野の研修病院に 1 年間勤務した場合は、上肢・手 8 単位、リウマチ 4 単位を認定します。

研修計画

1 専門知識・技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識・技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識能習得状況を6ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。専攻医の過半数が獲得できていない知識があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

2 経験目標

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を琉球大学附属病院及び連携施設で偏りがないように経験することができます。

3 各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催、もしくは日本整形外科学会主催の学会等への参加を促します。

研修計画

4 リサーチマインドの養成計画

すべての専攻医が自らの症例を用いた臨床研究を学会等で最低年1回発表、 また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。研究指導は各施設の指導医が行います。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。

5 コア・コンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コア・コンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コア・コンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コア・コンピテンシー）を早期に獲得させます。

琉球大学病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

6 地域医療に関する研修計画

本プログラムの研修施設群は県内離島地域の中核病院を含みます。すべての専攻医は離島地域の中核病院に3ヵ月以上勤務します。これら中核病院にも指導医が常在しており、地域医療のみならず一般整形の研修も同時に行えます。また地域内活動として毎年10月の「骨と関節の日」に基幹施設により開催している一般市民セミナーで骨密度検診に参加します。

研修およびプログラムの評価計画

1 専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6ヵ月に1回行い、専門研修プログラム管理委員会に提出します。
他職種（看護師、作業療法士など）も含めた琉球大学および各連携施設での研修評価（態度も含めた総評）を各施設での研修終了時に行います。
専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。
上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

2 専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長1名、副専門研修プログラム統括責任者を2名とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。琉大整形ネットワークを専門研修管理事務局に置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。年4回の定期委員会（4月,7月,11月,2月）を開催します。11月に専攻医4年次の修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します。

3 FD（Faculty Development）の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。
指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

研修およびプログラムの評価計画

4 専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年1回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

5.4 専攻医の就労環境の整備機能

琉球大学病院や各専門研修連携施設の病院規定により、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- 施設の給与体系を明示します。

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就労環境を調査します。就労環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

修了要件

① 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること
② 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
③ 臨床医として十分な適性が備わっていること
④ 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより30単位を修得していること
⑤日本整形外科学会が主催する骨・軟部腫瘍特別研修会を受講していること
⑥1回以上の学会発表か筆頭著者として1編以上の論文があること

以上1～6の修了認定基準をもとに、専攻研修4年目の12月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6ヵ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

6. 研修スケジュール

専門研修ローテーション・・・その前に

サブスペシャリティというのをご存じですか？

整形外科の守備範囲は他のどの診療科より広範で、全身すべての関節、筋肉、四肢の血管、皮下組織から脊椎、脊髄、末梢神経などの運動器(体を動かす部分に関わるところ)が対象となり、年齢も新生児、小児から高齢者までを扱います。このため、整形外科には以下のような多岐にわたる専門領域があります。

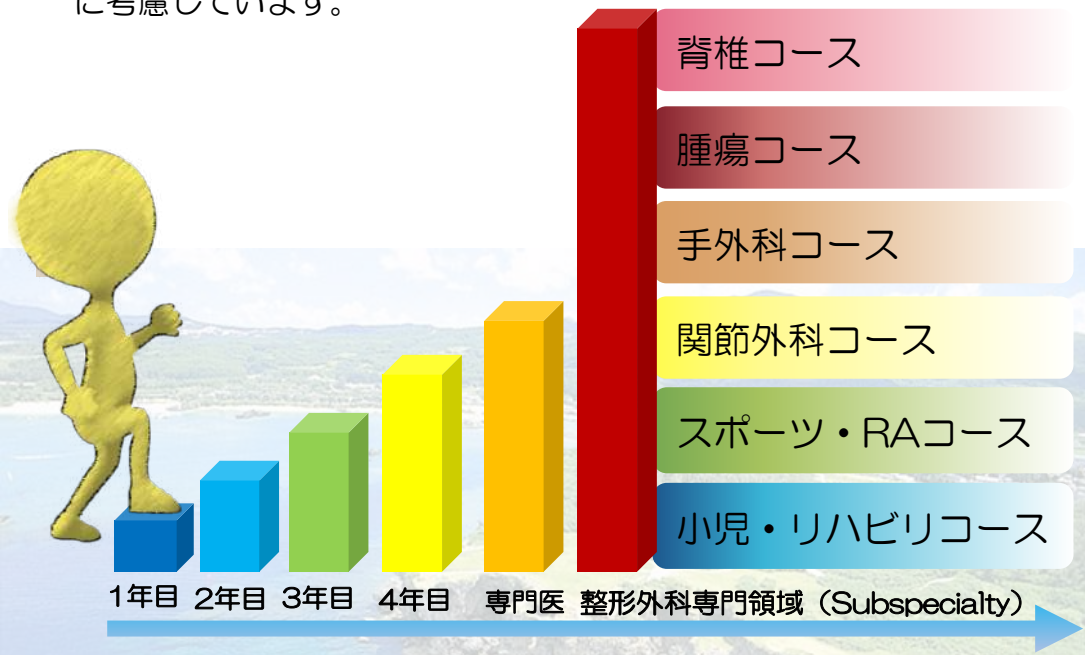
整形外科専門医資格は一般整形外科を行うための必要条件であり、これを取得した後それぞれの専門領域に進むのが一般的です。

整形外科専門領域（Subspecialty）

- 脊椎脊髄外科医
- 関節外科医
- 手の外科医
- 足の外科医
- 骨・軟部腫瘍医
- 関節リウマチ外科医
- スポーツドクター
- 外傷整形外科医
- 骨代謝・骨粗鬆症医
- 小児整形外科医
- マイクロサージャリー医
- 産業医
- 運動器リハビリテーション医

研修システム

私たちの研修プログラムは、必須単位を満たし、なおかつ初期研修のかかげるgeneralismからprofessionalism（整形外科専門医）へ、さらにはSubspecialtyへの連続的な育成プログラムとなるように考慮しています。



琉球大学整形外科では6つの専門グループがあります。各専門研修コースは、専門医取得後のサブスペシャリティーに対する専攻医の希望を考慮して決定されます。また、研究を希望する専攻医には大学院への進学も可能です。いつでもご相談ください。

整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料13「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照して下さい。

基幹病院

琉球大学整形外科週間スケジュール

	月	火	水	木	金
朝	術前検討会 グループ回診	総回診 抄読会	術前検討会 術後検討会 グループ回診	術前検討会 グループ回診	ﾘｻｰﾁﾐｰﾃｨﾝｸﾞ 術後検討会 グループ回診
午前	専門外来 手術	手術	専門外来	手術	専門外来
午後	専門外来 手術		専門外来		専門外来

Online・カンファレンス

Face to Face・カンファレンス

どのような社会情勢にも関わらず専攻医の育成は最優先

研修施設のローテーション例

	1年目	2年目	3年目	4年目
1	琉球大学病院	中部徳洲会病院	中頭病院	県立宮古病院
2	琉球大学病院	中頭病院	沖縄赤十字病院	県立宮古病院
3	友愛医療センター	琉球大学病院	ハートライフ病院	県立八重山病院
4	那覇市立病院	琉球大学病院	県立宮古病院	県立中部病院
5	ハートライフ病院	琉球大学病院	県立宮古病院	友愛医療センター
6	南部徳洲会病院	県立中部病院	琉球大学病院	県立八重山病院
7	琉球大学病院	南部徳洲会病院	県立八重山病院	沖縄赤十字病院
8	中頭病院	那覇市立病院	県立八重山病院	琉球大学病院
9	中部徳洲会病院	ハートライフ病院	琉球大学病院	那覇市立病院
10	県立中部病院	大浜第一病院	那覇市立病院	琉球大学病院
11	聖隷浜松病院	琉球大学病院	中部徳洲会病院	那覇市立病院
12	中頭病院	琉球大学病院	沖縄赤十字病院	熊本整形外科病院

私たちの研修プログラムでは、大学病院で1年間の研修をすることができます。大学病院の研修では、脊椎、腫瘍、小児整形、手外科、スポーツ・リウマチ、人工関節グループの6つをローテーションしてもらい、各専門分野でエビデンスに基づいた治療方針の立て方、プレゼンテーションの作り方、英語のプレゼンテーションの仕方を習得します。カンファレンスやプレゼンテーションを通して、一般的な疾患から難渋例までを論理的に考えるという臨床能力を高めるために必要な研修です。

さらに、3年目、4年目には県立八重山病院や県立宮古病院の連携施設で、地域の医療事情や地域の実情に合わせ、地域で完結する整形外科医療の研修を行うことができます。

施設ごとの研修可能分野

習得可能な研修領域

No.	医療機関	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
0	琉球大学病院	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
1	神戸大学医学部附属病院（兵庫県）	■	■	■	■	■	■	■	■		
2	沖縄協同病院	■		■	■						
3	同仁病院	■	■	■	■	■	■				
4	聖隷浜松病院整形外科（静岡県）	■	■	■	■	■	■	■	■		
5	おもろまちメディカルセンター			■	■						
6	中頭病院	■	■	■	■	■	■	■			
7	大浜第一病院	■	■	■	■						
8	北部地区医師会病院	■	■	■	■	■					■
9	南部徳洲会病院	■	■	■	■		■		■		
10	沖縄県立宮古病院		■	■							■
11	与那原中央病院		■		■	■	■			■	
12	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	■			■			■			
13	那覇市立病院	■	■	■	■		■	■			
14	沖縄県立中部病院				■			■			
15	沖縄リハビリテーションセンター病院		■	■			■			■	
16	ハートライフ病院	■	■	■	■		■				
17	友愛医療センター	■	■	■	■	■	■			■	
18	海邦病院		■	■		■	■				
19	沖縄県立八重山病院			■	■		■				■
20	中部徳洲会病院	■	■	■	■		■			■	
21	沖縄赤十字病院		■	■	■	■		■	■		
22	沖縄県立北部病院		■	■	■						■
23	明和病院（兵庫県）	■	■	■		■	■		■		
24	国立病院機構　神戸医療センター（兵庫県）	■	■	■	■	■		■			
25	兵庫県立こども病院（兵庫県）	■	■	■	■			■	■		
26	熊本整形外科病院（熊本県）	■	■	■	■	■	■	■			

a：脊椎　b：上肢・手　c：下肢　d：外傷　e：リウマチ
f：スポーツ　g：小児整形　h：腫瘍　i：リハビリ　j：地域医療

大学院（博士課程進学）コース

ロールモデル

さらなる学びで、夢につなげる！

大学院への進学は専門研修期間4年目（医師6年目）から可能です。なお、本プログラムでは大学院へ進学しても臨床能力を習得・維持することができます。

大学院では、国際的に活躍できる人材の育成を行なっています。必要なデータを文献で探す「探求力」、学会発表で多くの研究者との意見交換を通して培われる「ディスカッション力」、データを論理的に解析する「考察力」、英語論文の執筆から得られる「語学力」などの研究のスキルを身につけ、そして「探究心（リサーチマインド）」を養うことができます。リサーチマインドは、診断、治療の応用力を育み、長い医師人生に厚みをもたせ、広い視野で患者さんを治療することができます。臨床医が大学院へ進学することを「遠回り」だと感じることもあるかもしれません。しかし、研究を通して培われるこのような力は、臨床で直面する壁を乗り越える際に非常に有効なスキルとなり、夢につながる近道となります。

7. 研修終了後の進路

サブスペシャリティー領域との連続性

整形外科専門Subspecialty

進みたい領域の専門診療グループに所属し、連携施設において
専門領域の研修を行うことができます。

日本整形外科学会　豊富な専門領域	検索

https://www.joa.or.jp/edu/subspeciality/subspecial_area.html

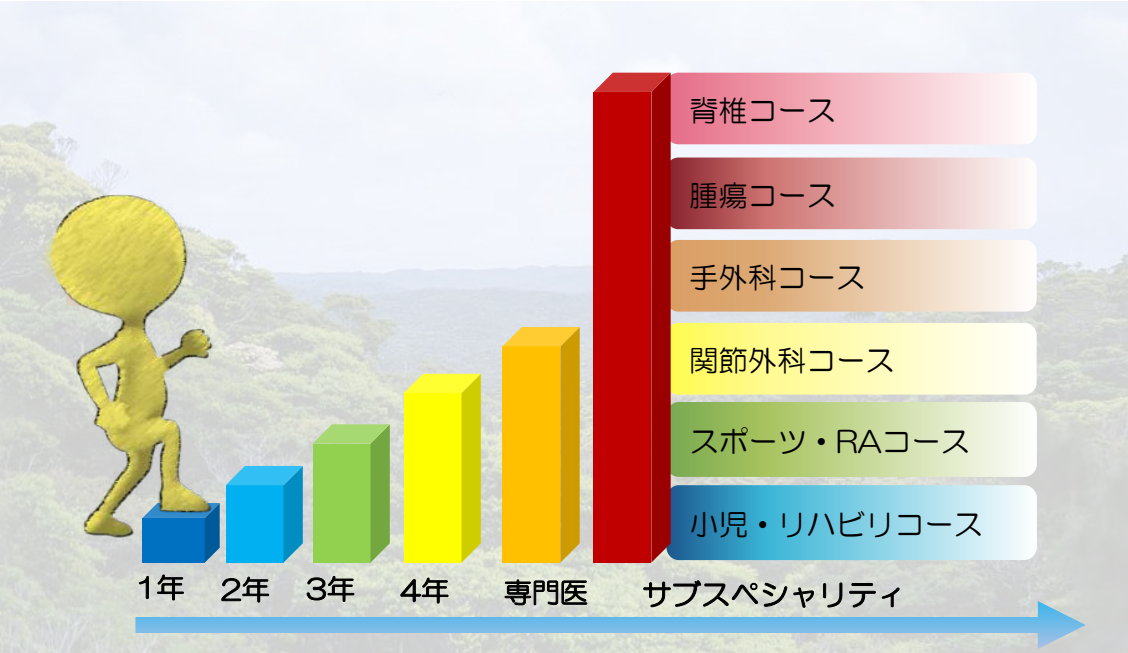


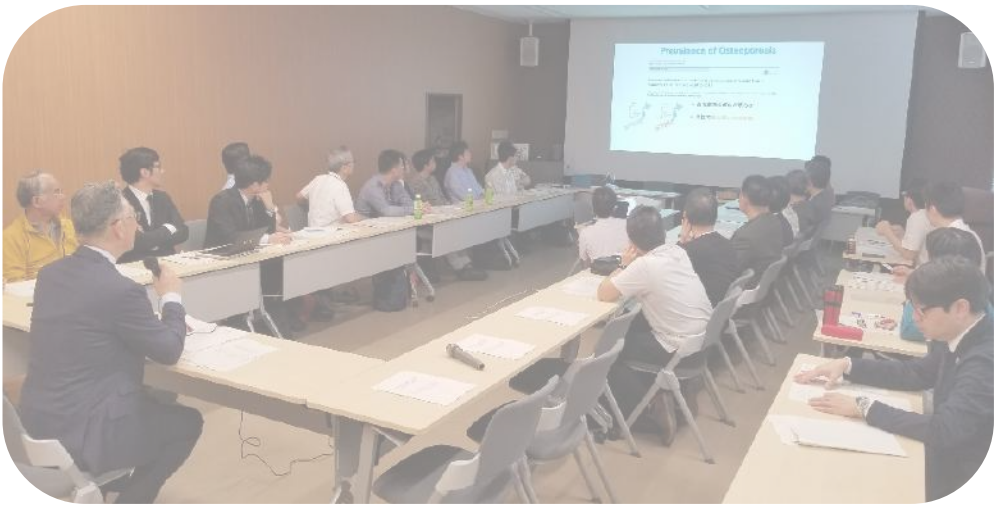
Photo by YUJI

8. 専門研修プログラムの体制

指導管理者運営会議

基幹施設である琉球大学病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には添付した日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることから研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する琉球大学整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、年に一度の管理者会議を開催します。



9. 応募方法・病院見学の申し込みについて

専門研修プログラム応募方法

応募に必要な以下の書類を郵送またはメールでお送り下さい。選考は面接、もしくは試験にて行います。

1.琉球大学医学部整形外科専門研修プログラム応募申請書
（琉球大学整形外科ホームページよりダウンロード）
2.履歴書
3.医師免許証(コピー)
4.医師臨床研修修了登録証(コピー)か臨床研修修了見込み証明書
5.健康診断書

【問い合わせ先】
〒903-0215
沖縄県中頭郡西原町上原207
琉球大学医学部整形外科
医局長　仲宗根哲（なかそねさとし）
TEL：098-895-1174
FAX：098-895-1424
Email：seikei@w3.u-ryukyu.ac.jp
公式HP:https://www.ros2019.com

オンラインでの
相談も可能です。
-ZOOM, TEAMS, MEET-

※新専門医制度の研修プログラム応募手順（https://jmsb.or.jp/senkoi/#an02）を参考にweb管理登録は必ず各自で行ってください。

病院見学の申し込み

見学のお問い合わせは「琉球大学臨床研修センター」
https://sotsugo.skr.u-ryukyu.ac.jp/center/tour/にご連絡ください。

Department of Orthopedic Surgery
University of the Ryukyus